

(15) キャリア教育部会

会 長 佐竹 正史 (利岡小)
副会長 岸本 教恵 (後川中)
事務局 町田 恵 (県立中村中)

1. 研究主題 「 キャリア教育の充実を図る 」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 5月8日(水)	四万十市教育研究会 組織総会 内 容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小	8名参加
令和元年 8月20日(火)	四万十市教育研究会(教科外・領域)夏季研修会 内容：キャリアの視点を生かした学習の研修 講 師：黒田令子校長先生(宿毛小)	中央公民館	7名参加
令和元年 10月2日(水)	四万十市教育研究会(教科外・領域)研究大会 内容：社会で求められている人材について 講 師：宮川 昌美さん (株式会社ANA総合研究所「元気な日本」創生事業 部研究員：派遣先 四万十市役所 商工観光課)	県立中村中	8名参加

3. 今年度の取り組み

① 四万十市教育研究会(教科外・領域)夏季研修会

内 容：キャリアの視点を生かした学習の研修 講 師：黒田令子校長先生(宿毛小)

これからの時代に向け、子どもたちに共通して求められる力は、文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力である。新たな社会を牽引する人材は技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材、様々な分野において AI やデータの力を最大限活用し展開できる人材等である。これからは、汎用的能力が必要で、様々な知識や情報を活用して、目の前の課題を他の人と共に解決していくことのできる人物・自ら新しい知を創造できる人物が求められ、児童生徒自身が学ぶことが必要となってくる。

【 キャリア教育推進の2本柱 】

- 子ども・若者の発達の段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた指導をすすめる。
- 職場体験活動・インターシップ等の体験活動や外部人材の活用など、地域・社会や産業界等と連携・協力した取組を推進することが大切。

【 キャリアノートの取り組み 】

キャリアノートに書く項目の決定→年間指導計画でピックアップ→キャリアノート(キャリアカード)へ記入→授業でキャリア教育の視点を入れる→児童生徒が身についたと自覚した力の記録による振り返りの蓄積→授業者の授業の振り返り

授業づくりやキャリア・カウンセリングについてなど、日々子どもと接している教師だからこそできることを考えていくことが必要。

実践交流としてキャリアノートの活用方法や小学校から中学校への引継ぎの案など意見が出され、それぞれの学校の取り組みを共有した。

② 四万十市教育研究会（教科外・領域）研究大会

内 容：社会で求められている人材について 講 師：宮川 昌美さん

(株式会社ANA総合研究所：派遣先 四万十市役所)

- | |
|--|
| 1、外から見た日本
2、今、社会で求められる人材とは
3、コミュニケーションスキル（気づかひのコツ） |
|--|

上記の3つに焦点を当て、ANAでの勤務経験やANAでの社員教育などの内容を元に講演をしていただいた。

「若い世代の特徴」として、コミュニケーションが苦手、助け合いの成功体験が少ない、相手のことを考えて行動できない、課題のある現状から逃げる傾向があるなどが挙げられた。最近の児童・生徒と接していて教員が気になること、弱さを感じる部分と同じであるという意見になった。

『社会人基礎力』として、「前に踏み出す力」や「考え抜く力」、中でも「チームで働く力」がとてでも求められており、『人生100年時代の社会人基礎力』として、上記の3つに加え、能力を発揮するにあたって、自己を認識して振り返りながら「どう活躍するか(目的)」「何を学ぶか(学び)」「どのように学ぶか(統合)」のバランスを図ることが大切になるということだった。

「今日これから私たちにできること」として、参加者からも「言葉(表現)の大切さ」に気づき、学校や職場で、「相手をほめること・認めること」を実践することで、生徒や同僚の自尊感情を高めることが必要であり大切ではないかということになった。

ANAの気づかひの定義として「相手のこと」「1歩先のこと」を想像する習慣をつけること、「気づかひ」は必須のビジネススキルであることを教えていただいた。「気づかひ」は目には見えづらいものだが「伝承」が必要で、やがて組織に伝染していくものであるということだった。

4. 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・キャリア教育についての理論学習及び宿毛市の取り組みについて実践を開くことで、学校の取り組みの方向性を考えることができた。
- ・株式会社ANA総合研究所の宮川 昌美さん（四万十市役所 商工観光課）から『社会で求められる人材について』の話を聞くことで、小中学校における学びの重要性を考えることができた。
- ・理論学習だけでなく、実際に社会で活躍されている方を外部講師に招聘し、予定通りに研修会を持つことができ、有意義な研修会になった。

<課 題>

- ・キャリア教育の重要性については理解しているが、学校教育全般の中で実務的な取り組みとの関連が難しく、キャリア教育の広まりが十分にできにくい。
- ・会そのものの回数及び部会メンバーの学校に限られており、各校のキャリア教育の情報が得られにくい。また、キャリア教育の取り組みを広げていくことが難しい。